



H 20年9月17日

さくしん

下氷鉋小学校

(校長室だより 5)

校長 大内 徹

朝夕は涼しくなってきましたが、日中は相変わらず暑い毎日であります。20日の運動会をまぢかに、校庭での運動会の練習にも熱が入っています。幸い子供達は明るく元気に練習にも取り組んでいます。今も、校庭の方から「よいしょっ!」「よいしょっ」と一年生の綱引きの大きなかけ声が響いてきます。下氷鉋小学校の運動会は今年で113回目を迎えますが、私にとってはこのような規模の運動会は教職についてからは初めてのことで、今から楽しみにしています。運動会の練習の様子を眺めていると、私の小学校の頃を思い出してしまいます。昔は運動会といえ、いなり寿司や海苔巻きのお寿司、ソーセージや卵焼きがおかずのお昼のお弁当でした。比較的脚の速かった私は運動会は大好きで、当日の天気が心配で仕方なくなるくらいに、運動会の日を心待ちにしていました。しかし、私の気持ちとは逆に、運動会そのものを憂鬱に苦痛に感じていた友達もいたのかもしれないし、下氷鉋小学校にもそのような児童がいるのではないかと思います。

学校生活の中には、自分の得意な部分を発揮できる場もあれば、苦手な部分をこらえながら、我慢して、乗り越えていかねばならない場面もあります。小・中学校時代、泳ぎが苦手だった私は、水泳大会(小)、水泳クラスマッチ(中)は、一ヶ月も前から嫌な憂鬱な思いになる学校行事でした。中学校一年のクラスマッチの時、「泳げない」と言っていると、「何言っているんだ」と、怖い顔をした担任は、無理やり私を水の中に飛び込ませました。平泳ぎとはとても言えぬような泳ぎ方で、途中つま先が水の底につきそうになるのをこらえながら、50メートルを泳ぎ切った私に、「泳げたじゃないか」と声をかけてくれた担任の優しい笑顔も脳裏に焼き付いています。私にとっては、水泳大会は憂鬱で嫌な行事以外の何物でもありませんでしたが、それなりの達成感、「自分なりに泳げるんだな」といった自信のようなものを味わうことのできた学校行事であったと、今は振り返っています。

校長室へ遊びに来る子供たちに「運動会楽しみにしている?」と尋ねてみると、たいがいの子が「楽しいよ」と答えてくれますが、全校の中には、水泳大会時の私と同じような思いをしているお子さんもいるのではないかなと心配です。私が小学生、中学生の頃は、親は私の気持ちがどうのこうのとは考えてもいなかったであろうし、分かっていたとしても知らん顔だったと思うのです。運動会を楽しみにしている子には、「頑張って楽しい一日にしておいで」と声をかけていただきたいです。体を動かしたり、運動をするのが苦手な、運動会を前にして気が重くなっているようなお子さんに対しては、じっと見守りながら、精一杯頑張るようにと励ましてやってください。九月の児童会の生活目標の中に「転んでも走り抜け 最後まで みんな心の一等賞」というフレーズがあります。かけっこなら、速い子もいれば遅い子もいます。一等、二等・・・はもちろんうれしいことですが、

我が子が一生懸命力の限りを尽くしているかをしっかりご覧いただき、その姿を見届け、認めていただければ幸いです。一人ひとりの子が「心の一等賞」を味わえるような運動会であつたら幸いです。

さて、運動会や音楽会、日常の学習も含め、子ども達は一人ひとり、互いの関わりの中で、様々な学びの場と出会い、それらをくぐって成長していきます。その過程では、いじめや嫌がらせ等のような心配や苦痛の種は取り除いていかねばなりません。一方、子どもが嫌だと避けたがる場面を、子ども達自身の心や体を鍛え成長させてくれる負荷としてとらえ、それらに正対させ、力の限りを尽くさせることも大切なことです。子どもの傍で見守る者として、時として、子どものつらさを取り除いてやりたいという甘い気持ちに駆られることもあります。励ましながら心を鬼にしてじっと見守ったり、嫌だということに立ち向かわせていたりすることも大切な指導ではないでしょうか。小学校での担任経験のない私の眼からは、暑い日中での練習は子ども達も大変だろうし、指導されている先生方にとってもハードだろうと心配しつつ、それぞれの学年、担任の先生方の熱心で、時には厳しい指導の中、この運動会という学びの場、鍛錬の場を経ていく下氷鉦小の子ども達は、また更に力強く、たくましく育っていくに違いないと確信するのでございます。

話は変わりますが、昨年十一月に始まった北校舎の増築工事も八月末に竣工し、今月一日に学校への引き渡しが行われました。二日の校長講話では、以下のようなこと（講話後半部分）を児童の皆さんにお話しいたしました。また、北校舎増築記念として、区長会より油絵（祖父母会長 正村昌男先生 作）を贈っていただきました。北校舎東側の階段壁面に飾ってありますので、ご来校の折にご覧ください。校庭南側より長野市の山々を背景に校舎全体を望むその油絵には、校庭やひがの山に集い語らう子ども達や、桜や相撲場、作新記念館等、本校の特色とするものがきれいに描かれており、温かみを感じるすばらしい作品です。

校長講話「北校舎増築に寄せて」 （後半）

さて、今回の新しい校舎は、長野市の苦しい財政事情の中、いろいろな方々のお骨折りをいただき建てられました。新しい校舎ができたということは、おめでたいことであり、また本当にありがたいことです。でも新しいだけに、いかに汚さず、いためず、きれいに使い続けるか、責任を感じますね。学校にとって、校舎は雨風や暑さ 寒さから身を守る、服や着物のようなものです。新しいきれいな服を着ると、とても 気持ちがいいものです。しかし、人間の価値やすばらしさが、その人の着ている着物 や服装で決まらないように、学校の素晴らしさも、着ている服、ここでは校舎になりますが、校舎の新しさや素晴らしさで決まるものではありません。学校の素晴らしさは、なんといっても、その中で勉強したり遊んだりしている、皆さんがどのような児童であるか、そのありよう、姿で決まります。どんなに古い校舎であっても、児童の皆さんが、元気で明るく挨拶を交わし、みんなが仲良く学んだり遊んだりしている教室は、校長先生の目には、とっても素晴らしくきらきらと輝いて見えます。今までの 校舎で学び続ける皆さんは、古いのに光り輝いているなあと言われるように、頑張ってお掃除をしましょう。そして、中身、自らの姿を充実させましょう。新しい校舎に引越す皆さんは、気持ちを新たに、さらに磨きのかかった、美しい、中身の充実した学び舎にしていって下さい。新しい校舎が誕生し、また新たな下氷鉦小学校の歴史が始まりました。みんなで135年の長い伝統を誇るこの下氷鉦小学校をさらに素晴らしいものにしていきましょう。

※尚、校長講話及びこの校長室だよりは本校ホームページにも掲載されております。

